

5 - 2 若狭湾東部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Eastern Part of Wakasa Bay

海上保安庁水路部

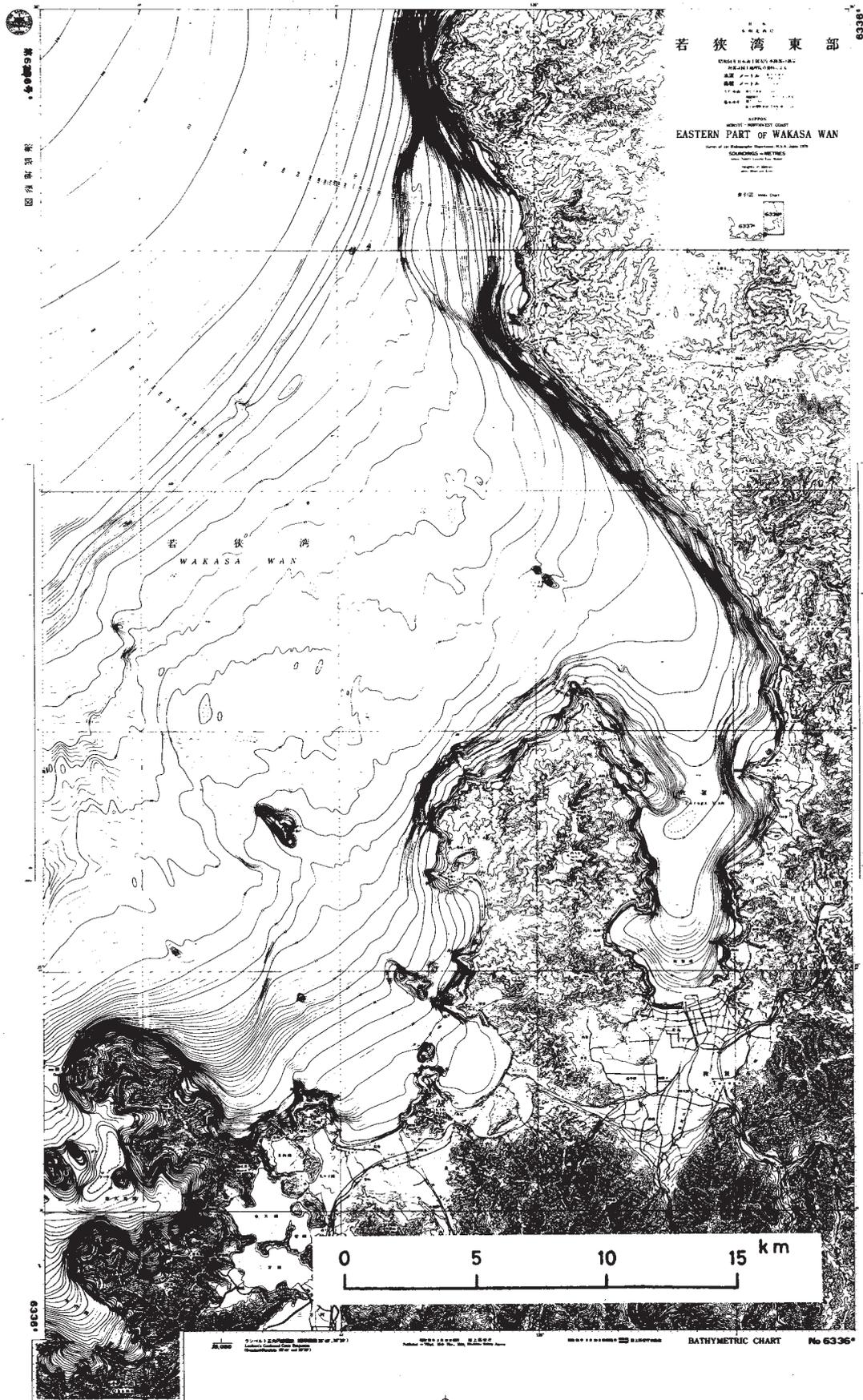
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

1 / 5万沿岸の海の基本図整備の一環として、昭和54年6月～8月まで標記の調査を実施した。

海底地形図（第1図）は、水深130m以浅では1m毎、130m以深の海域では5m毎の等深線となっている。大陸棚外縁の水深は130～140mを示すが、越前岬付近では、この外縁は不明瞭となって沿岸部から5/100～10/100の傾斜で深くなり、水深250m以深の縁辺台地が続いている。大陸棚上では水深80～95m間に分布する1～2mの微小凹凸を伴う平坦面が顕著である。この平坦面は菅浜の西北西方からNNW - SSEに延びる推定断層群により二分されている。この断層群の東側平坦面は水深75～95mで、水深80～84m、88～92mに更に顕著な小平坦部が見られる。同西側の平坦面の水深は80～85mで、小平坦部は水深84～86m、90～92mに見られ、明瞭ではないが前記東側の小平坦部に比し、2～3m深くなっている。なお、この平坦面上の微小凹凸は概してN - SおよびNNW - SSE方向のものが多い。

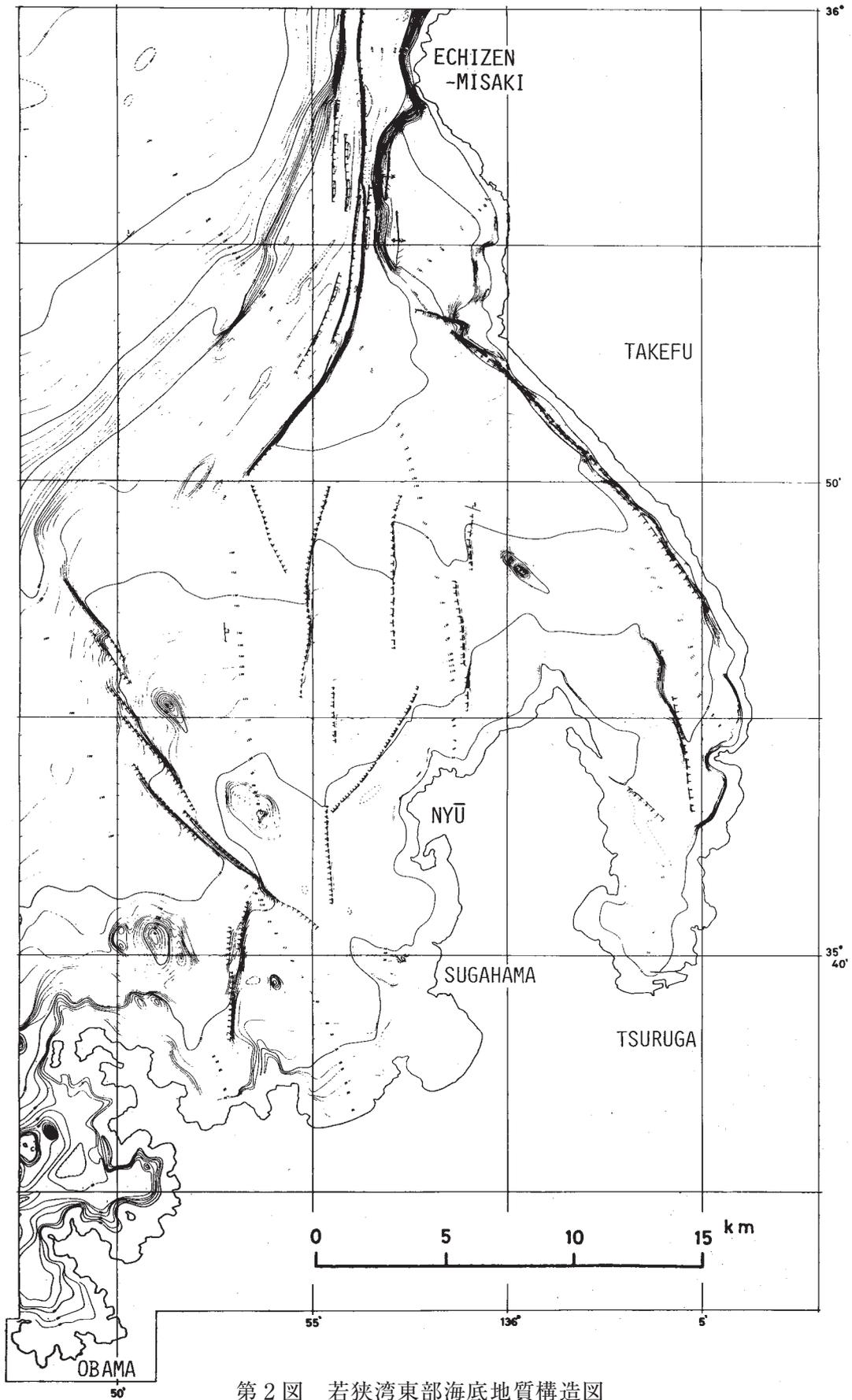
海底地質構造図（第2図）の5m毎の等深線は洪積層相当層（推定）の基底面の地形を、また破線の断層記号は推定断層を示す。越前岬沖をN - S方向に走り、南部でその方向を南西方向に変えている断層群は全長約19Kmで、越前岬南西方沖合に逆断層と見られる所がある。越前海岸と並走する推定断層は、音波探査では下位層が急角度で落ち込む記録であり、陸上地質を参考に推定したものである。この断層と前記断層群との間に断層角盆地が形成されている。菅浜の西北西方からNW - SE方向に走る推定断層群は、長さ2～4.5Km、右雁行のもので全長約17Kmの規模である。この断層群は、音波探査記録上では明瞭な地層の不連続は認められないが、下位層ほど深度方向の落差が大きくなっている。この断層群は海底地形図にも見られる。丹生の西方および北方に見られるN - S方向の3条の推定断層は、長さ5～8.5Kmのもので一部海底地形図上にも表われている。音波探査記録は前記推定断層群と同じである。

（高梨政雄）



第1図 若狭湾東部海底地形図

Fig. 1 Bathymetry in the eastern part of Wakasa Bay.



第 2 図 若狭湾東部海底地質構造図

Fig. 2 Geological structure in the eastern part of Wakasa Bay.